

この時期の平成30年度の気象と生育を振り返って

いもち病の発生は少なかったが、一部、防風林側の風当たりが少ない水田、過繁茂の水田で発生が見られた。カメムシの発生は少なく、被害はほぼ無かった。

営農技術情報 HO-O号

水 稲

平成〇年 〇月〇日発行

JA〇〇
石狩農業改良普及センター

営農技術
情報の例

いもち病に注意！

北海道病害虫防除所より葉いもちに関する注意報が出されました。

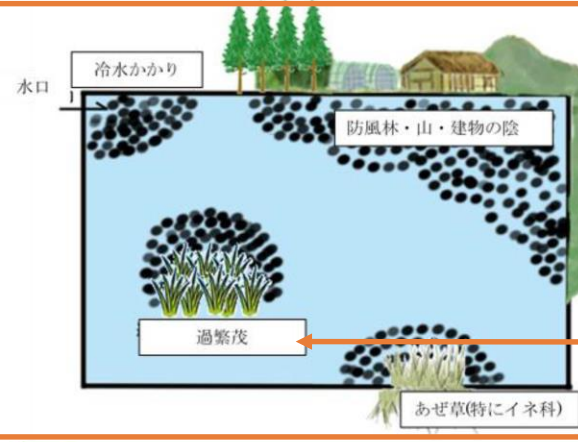
これによると、今後も降水量が多い予報があり、感染と発病に好適な条件になりやすいと予想されています。

また、BLASTAM（アメダスデータを用い、葉いもち感染好適日を推定するシステム）によると、新篠津、長沼で平成30年は6月下旬～7月上旬に感染好適日となっています。

水田の予察を行い病斑を確認した場合は直ちに防除を行きましょう。

予察の方法

- (1) いもち病は下葉から発病するので、株をかきわけて観察する。
- (2) 1畦10mを4カ所観察する。観察場所は下図を参考にしてください。



○観察によって、発病株（葉いもち病斑1個）が見つかった場合、1週間間隔で基幹防除（出穂期）まで防除を行きましょう。
○観察によって、発病株が見られない場合、出穂前の防除は不要です。基幹防除を行きましょう。

匠 いもち病の防除は、第一に箱施用。予防が大切！

基本こそ大切！



見つけた時には手遅れに近い。育苗時の箱施用を基本に、怪しい箇所は予防剤を早めに散布。



蒸し暑くて寝苦しい夜の翌朝や、23℃以上で風がなく朝露が残っている朝は注意！見回りが必要。ビールが美味しい夜に注意だ。



JAや普及センターから届く営農技術情報・発生情報もしっかりチェック！



発生があるか観察する時は、防風林のそば、畔草が繁茂しているところ、稲が過繁茂になっているところを入念にチェック。



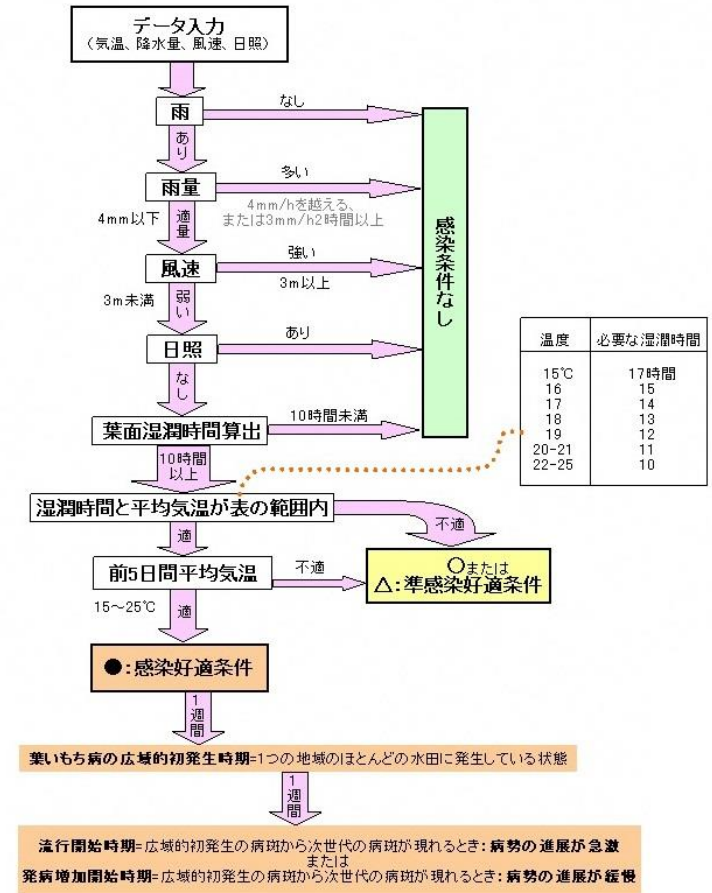
病斑を1個見つけたら他に100個あると思う。直ちに防除だ。潜伏期間は17日間。

基本こそ大切！



片付け忘れなのか、水田内に「取り置き苗」がたくさんある。いもち病の発生源となるので、絶対やめよう。油断大敵！

BLASTAMによる葉いもち感染好適日推定のフローチャート



私はこちらしてる！

窒素をやり過ぎの過繁茂のところは、予防剤をスポットでやることもある。



失敗した・・・



今年は6月の低温で、稲の分けつ時期がズレてしまい、穂揃いが悪くてカメムシ防除のタイミングを逸してしまった・・・。次からは早い穂に合わせ防除していきたい。

基本こそ大切！

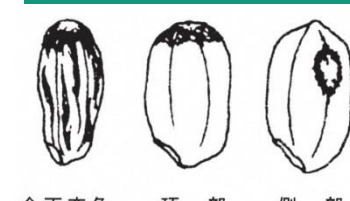


カメムシには、ていねいな畔草刈りと追加防除！

私はこちらしてる！

カメムシは走光性がある。夜に明かりが灯る窓に見つけたら次の日は防除だ。

【普及センターから解説】～ 反省時に使える！ 斑点の位置で分かるカメムシの加害時期～



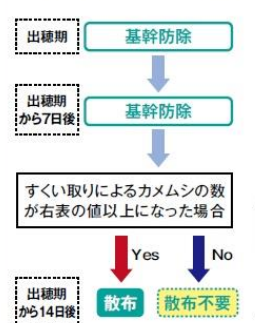
加害ステージ	斑紋位置の割合(%)		
	全面変色	頂部	側部
乳熟前期	18	75	7
乳熟後期	13	81	6
糊熟期	2	32	66
黄熟期	0	1	99



北海道米麦改良協会資料より

モニタリングを利用したカメムシの防除

「出穂期」「出穂から7日後」は基幹防除。基幹防除以降はモニタリング調査により防除の要否を判断しましょう（下図）。



効率的なカメムシ防除技術

- ◆基幹防除時期における効率的防除技術 (H27指導参考事項) 「出穂7～10日後の1回散布」効果が高く残効性の長いジノテフラン液剤、エチプロール水和剤Fを茎葉散布することで、基幹防除の出穂期散布を省略できます。
- ◆水面施用剤による防除 (H20指導参考事項) 「出穂期～7日後における1回施用」出穂2週間後まで残効が認められ出穂期および7日後の茎葉散布2回と同等の効果が認められます。

すくい取り時期	20回採りのカメムシ数(頭)	1	2	3
出穂 10～12日後 (追加防除の2～3日前)	1	2	3	

注: 1頭/㎡以上は散布、以下は散布不要。以降、7～10日間隔でモニタリング実施

※農薬の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用回数を必ず守ってください

この時期の平成30年度の気象と生育を振り返って

出穂期以降の低温と日照不足により、登熟の進みが鈍く、遅れ穂の影響により登熟が不揃いとなりました。

営農技術情報 HO-〇号

水 稲

平成〇年〇月〇日発行

J A 〇〇
石狩農業改良普及センター

営農技術
情報の例

今年の収穫適期について

籾の状態と玄米品質を見極め、適期収穫に努めましょう。

1 水稻の生育状況

出穂期は平年より遅く、稔実籾数が平年よりやや少なめです。

	出穂期	穂数 (本/㎡)	一穂籾数 (粒/㎡)	不稔実合 (%)	総籾数 (粒/㎡)	稔実籾数 (粒/㎡)
本年	8月3日	525.7	71.8	15.3	37734	31961
平年	8月1日	563.2	63.7	9.8	35876	32360

作況ほにおける成熟期見込み（恵庭島松アメダス）
(注1)

2 今年の収穫適期の見込み

出穂期は平年より遅く、出穂期以降も不順な天候の日が多かったため、成熟期は遅れる見込みです。

	出穂期	成熟期	登熟期間 積算気温(°C)	20日間 積算気温(°C)
本年	8月3日	9月23日	929	385
平年	8月1日	9月17日	915	415

また、遅発分げつが多く 出穂期別成熟期見込み（恵庭島松アメダス）(注1)

穂揃いが悪いため、日数や天候だけで収穫適期を判断することは困難です。生育の遅れたほ場では成熟期に至らなくても玄米品質が低下する前に収穫した方がよい場合もあります。

出穂期	積算気温950°C に達する日	積算気温1000°C に達する日
7月31日	9/20	9/24
8月1日	9/22	9/25
8月2日	9/24	9/27
8月3日	9/25	9/29
8月4日	9/26	9/30
8月5日	9/28	10/1
8月6日	9/29	10/3

注1：平均気温は9月3日までは本年の値、それ以降は平年値を用いて試算しています

収穫前には適期収穫判定会等で玄米の状況を確認しましょう。

【農作業事故防止】

コンバインの詰まり除去や点検時は必ずエンジンを切りましょう。



収穫適期は自分の勘だけで判断しない！

基本こそ大切！



出穂後、積算温度が1,000°Cに達したら、試し刈りを行う。なお、籾は乾かして、ちゃんと籾すりしてから玄米を見ること。玄米の状況を確認せずに刈り取りすることは絶対にダメ。自分で玄米を剥いてみて、米を見る「眼力」を身につけよう。

私はこうしてる！



積算温度を把握する際、水田に自動温度記録計を設置しておくで便利。

【自動温度記録計（商品例：Paddy Watch）】

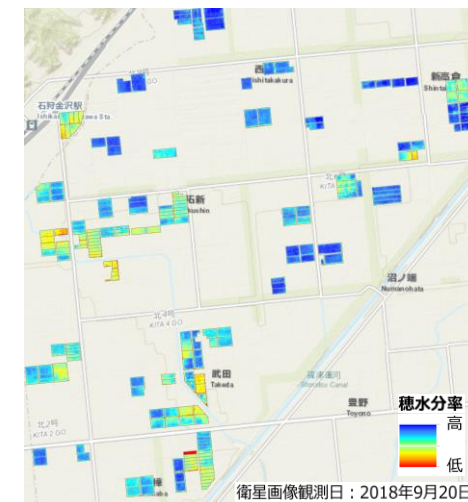


記録したデータは、スマートフォン等で確認できる。

私はこうしてる！



衛星画像も活用して照らし合わせると、田んぼごとの登熟の違いが分かる。オススメ。



人工衛星による水田撮影画像
集団で画像を購入した例（上記は一部抜粋）、7,800円/件

基本こそ大切！



収穫判定講習会・下見検査は情報交換の場でもあるので、若手は特に参加すると勉強になる。他の農家さんの話を聞くことも大切。



収穫判定講習会・下見検査には必ず参加しよう。自分の勘で収穫時期を判断したらダメ。ちなみに持って行く米は、刈って天日干したものにすること。どうしても講習会に参加できない時は普及センターに直接相談だ。

基本こそ大切！



一等米の比率を増やしたいなら収穫の待ちすぎはダメ。待っても青米は整粒にならない！



止葉が枯れたら登熟はもう進まない。収穫を待っても着色するだけ。

基本こそ大切！



コンバインのクセをつかむこと。詰まりやすいところを把握しておき、作業中も入念に確認しよう。その時は、必ずエンジンを止めること。



【止葉が枯れた例】

平成30年9月5日の台風21号による暴風の影響で、止葉が傷みました。まだ登熟期間中であり、止葉の機能が低下したため、玄米肥大が緩慢となり、白未熟粒（シラタ）が増加し、収量、品質ともに低下しました。